

登録コード	UAC42500	開講年度	2026				
授業題目	フランス語学・フランス文学研究Ⅱ				担当教員	鎌田 隆行	
					副担当		
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	金曜・5時限		
			授業形態	講義			
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」				⇔	【授業の達成目標】	
	2 6 UAカリ・総人社・人間文化学, 2 5 UAカリ・総人社・人間文化学						
	【人間文化学】人間文化に関する文献・資料を収集・調査し分析・考察する人文学の伝統的な手法を身につけるとともに、他の学問分野の解析手法を併せて修得することによって、複雑多様化する現代社会の課題に柔軟な対応ができる応用力を有する。				⇔	フランス文学の作品に本格的な批評的アプローチを行うことによって高度な分析力の獲得を達成する。	
	【人間文化学】高度な言語運用能力とコミュニケーション能力を基盤として、多領域のステークホルダーと協働し、現代社会の課題に取り組みながら、独創的かつ多文化共生的な英知の創成と提案を行う力を有する。				⇔	フランス文学の作品に本格的な批評的アプローチを行うことによって高度な分析力の獲得を達成する。	
(2)授業の概要	近代小説の成立の問題をオノレ・ド・バルザック（1799-1850）の例を中心としながら考察する。西洋文学においては長らく詩や演劇が文学の王道であったが、近代になると小説が重要視されるようになる。フランスでは大革命後の歴史意識の高まりの中で、社会や人々の心性の変容をリアリスティックに描き出す小説が発展し、これが同ジャンルの隆盛へとつながっていく。本授業ではその代表的な作家であるバルザックにおける社会小説の展開を分析し、そこから小説の可能性の新たな広がりをも面的に考察する。						
(3)授業計画	この授業は第1回～第9回をオンライン（オンデマンド）、第10回～第15回を対面で実施する。実施の詳細については第1回ガイダンスで説明する。 第1回：ガイダンス：この授業のねらいと概要を解説し、参考書、授業の進め方、自主学習の方法について説明を行う 第2回：近代フランスの歴史と文学の動向の概要 第3回：バルザックの作家活動のクロノロジー 第4回：初期作品 第5回：専門ジャーナリズム時代の作品 第6回：『私生活情景』と哲学小説群 第7回：『十九世紀風俗研究』の成立 第8回：『社会研究』から『人間喜劇』へ 第9回：晩年の作品と未完の問題 第10回：作品読解（1）：『三十女』 第11回：作品読解（2）：『ニュシゲン銀行』 第12回：作品読解（3）：『ピエール・グラス』 第13回：作品読解（4）：『ゴディサル二世』 第14回：作品読解（5）：『貧しき縁者』 第15回：まとめ：受講生との質疑応答をもとに本授業に対する理解度を確認し、参考文献等の補完および学習アドバイスを行う 期末試験は行わず、レポートを課す。						
(4)成績評価の方法	●以下を総合して判定する。 授業への取り組み方（70%）、レポート（30%） ※評価割合は若干の調整を行うことがある。 ●得点率による評価基準は次のとおりとする。 90%以上 秀、89-80% 優、79-70% 良、69-60% 可、59%以下 不可。						
(5)成績評価の基準	(1)問題の設定が適切であり、(2)その問題の背景を説明できており、(3)その問題にどのような課題があるのかを指摘できており、(4)それらの課題に対して既存の学説が提示する解決法を適切に把握できており、(5)その上で自分の見解を提示できており、（1）～（5）に加えて、授業で学んだ文献が適切に参照されていれば「卓越している」。(1)から(5)の5項目を満たしていれば「かなり上にある」。4項目までできていれば「やや上にある」。3項目までできていれば「その水準にある」と評価される。						
(6)事前事後学習の内容	毎回の授業の最後に自宅学習のための課題を課す。						
(7)履修上の注意	教材の準備のため、受講生は初回開講日の前日までに教員にメールで受講の旨を連絡すること。第二回以降の開講日時は教員と受講生で相談の上、設定する。						
(8)質問,相談への対応	授業中に質問を受けつける時間を十分に設けるとともに、オフィスアワー（毎週火曜日の昼休み）またはアポイントメントによる面談で受講生からの質問に対応する。						
【教科書】	PDFで配布する						
【参考書】	柏木隆雄『バルザック詳説』、水声社、2020. 高山鉄男『バルザック』、清水書院、1999.						